

【取扱い厳重注意】

平成23年11月18日

聴取結果書

東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会事務局
局員 浅井雅司

平成23年11月18日、東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証のため、関係者から聴取した結果は、下記のとおりである。

記

第1 被聴取者、聴取日時、聴取場所、聴取者等

1 被聴取者

福島第二原子力保安検査官事務所 前原子力保安検査官 宮下明男

2 聴取日時

平成23年11月18日午後1時02分から同日午後2時10分まで

3 聴取場所

東京都千代田区霞が関1丁目3番1号
経済産業省別館5階501面談室4

4 聴取者

浅井雅司、仁保智紀

5 ICレコーダーによる録音の有無等

- あり
- なし

第2 聴取内容

原子力保安検査官等について
別紙のとおり

第3 特記事項

説明において、「事故直後に、福島第二原子力発電所において、福島第二保安検査官が作成した作業工程案」及び「作業工程案を踏まえ事業者が作成した電源復旧スケジュール案」の資料が示された。

以上

別紙

1 宮下明男氏の経歴等

- ・昭和 44 年に東芝に入社し、最初は本社の原子力本部で勤務した。まずは福島第一原発（1F）の 3 号機、次に 6 号機の建設工程に携わった。なお、新入社員の実習で 1F の 1 号機に行ったこともある。
- ・昭和 51 年頃に、1F の 1～3 号機で配管の応力腐食割れの問題が起き、配管の改造のために 3 年間程 1F の現場に出た。
- ・本社に戻り、柏崎刈羽原発、浜岡原発、女川原発等のプラント建設に関わった。その後、課長となり、配管トラブル等のトラブル対応の業務をしていた。
- ・福島第二原発（2F）で、配管のポンプのトラブルがあったことから、定検のための東芝の所長として 7 年程勤務し、電力会社より現場に詳しくなった。その後、1F で 7 年程勤めた。東芝の炉については、建設から定検まで一応全て関わったことになる。
- ・1F から本社に戻った頃の平成 11 年 9 月 30 日に JCO 事故があった。通産省からの依頼を受けた会社から、経験者として通産省に行ってくれないかとの話があって、平成 12 年 4 月に通産省（原子力発電安全企画審査課）に入ることとなった。
- ・平成 13 年 1 月に保安院が発足し、原子力保安検査官として、浜岡原発、1F、2F と 3 年半ずつ勤めた。
- ・事故後に退職し、現在は、JNES の技術顧問である。

2 1F について

- ・1 号機は GE が受注しているが、GE の下で原子炉建屋は東芝が、タービン建屋は日立が担当した。2 号機も GE が受注しているが、GE の下で東芝が担当した。3 号機が国産第一号である。
- ・設計は自分の先輩がやっていた。自分が携わったのは、設計後の建築工程であり、GE のテクニカルサービスを担う「ゲツコ」と工程や状況を調整して進めていた。
- ・（設計・建築について）原子炉は巨大で総合技術の施設であり、それぞれの詳細は個々のチームで検討していた。全体のとりまとめは、プロジェクトマネジャーを中心とした 10 名ぐらいのコアチームで進めていた。

3 通商産業省入省について

- ・東芝時代、現場で所長をやっていたが、国の規制が文言上だけで行われており、現場を踏まえてないことが結構あった。規制上では、本当に問題があることを指摘して、そうではないことはあまり言わないというのか、字面だけで判断するのは間違いだ、冗談じゃないと思っていた。
- ・自分が作って育てたプラントについて「良い事は良い」「悪いことは悪い」ときちんと

【機密性 2 情報】

と言える検査官であるべきだと思った。東芝から保安検査官になった人間は、少なくともそういう人間が多かったと思う。

- ・定年は55歳であったが、会社から中途採用の話が来た時には、50歳であった。東芝の中でも、上に行くのは結構大変で、所長という立場でもういいか、また、責任を外したいという気分もあり、キャリアパスというよりも、自分で作ったものをきちんと育てたい、最後まで面倒を見ようというつもりで、応募した。

4 原子力保安検査官について

- ・(本院の)若い職員も異動で現場に配属されていたが、2、3年で、慣れたところに代わってしまう。役人の場合の将来のことは知らないが、もう少し長く、5年や10年の単位で、専門家を育てるべきだと思う。(現場で)「この人いいな」と思う人がいても、(東京に)戻って(原子力安全とは)全然関係ないことをやっている。本院の方の職員は、特にそうになっている。優秀な人を育てて、管理するようにすればよいと感じた。
- ・我々(経験者)は、技術的なことや現場のことはこうだと言えるが、法律的な理詰めの部分は結構(難しかった)。電力会社に対して、法律的にこうだと言える行政の職員と、現場的にこうだと言える我々(経験者)とを、うまく組み合わせると非常によい規制ができると思う。しかし、行政の職員も保安検査官という形で現場に出て(ある程度の知識を)持っていないといけないと思う。そうしないと、一番悪い字面だけの規制となり、本当の規制はできないと思う。
- ・電力会社は、(技術的には)メーカーを頼っているところが確かに結構あるが、電力会社は管理する立場、メーカーは提案して工事をする立場である。技術的にも詳しく、かつマネジメント能力もあることが一番好ましいとは思いますが、電力会社はマネジメント能力があればよい。電力は管理に徹するが、自分で感じたことだが、メーカーは都合のいい抜け道を一生懸命考える。行政の職員が、抜け道を考えている電力やメーカー側に行くと、(その経験を踏まえて)抜け道の無いように考えるのもいいとは思いますが。
- ・アメリカの場合、NRCのメンバーは、多分、元海軍や元GEなど、設計や現場で実際の操作を経験した方も多と思うので、規制ができると思っている。
- ・保安検査官として、3年半で異動したが、原子力発電検査課の総括の人が、検査官事務所に来るなどし、ある程度能力などを考えた人事だったと思っている。

5 保安検査・保安調査について

- ・経験だけの検査や言葉だけの検査をすると、むなしく感じ、つじつま合わせみたいな形の検査となり、東京電力の(トラブル隠しの)問題が起きたのだと思っている。
- ・自分では、保安検査官は、月に一度ほぼ全ての建屋を見、定検でも見るので、壊れ

【機密性 2 情報】

ているかどうか分かると思っている。自分の担当した浜岡、1F1、1F2、2F では、そういうことが起きないように努力していたが、中操に行って現場も見てれば、変なところは分かる。

- ・このやり方は個人的なやり方に近かったかもしれないが、現場を見て、写真を撮り、こういうところは改善してくださいなどとしていた。画像を電力に渡し、直すというのをやってもらった。このやり方は2Fでは共有していた。浜岡や1Fで後任には引継ぎは行い、保安検査官会議で、このようなやり方を取っているのだから、こうやればいいのではないかと話したこともあるが、共感してくれる検査官もいたが、私はそのやり方はしないという検査官もいた。
- ・本院の原子力発電検査課は「非常にいいこと」という言い方をしたが、日頃のプラントの管理は、マニュアル等の言葉では表しづらいものがあり、正直現場を見てもらうしかない。

6 緊急時対応について

- ・トラブルが起きたら、オフサイトセンターで指揮する人と、現場で判断する人の役割があり、事前に経験等を考慮して、所長が決めていた。現場の緊急対策室には二人が詰めることになっており、自分は、浜岡でも、2Fでも、緊急対策室に入ることになっていた。
- ・現場が2人なのは、機械や電気など、それぞれ得意なところがあるために、サポートの立場である。今回の事故を見ると、総合経験が必要ではないかと思っている。原子力は総合技術で、電力だけ詳しくても駄目である。電気や機械、試運転の経験等、一通り経験した方が望ましい。
- ・緊急室では、事故収束するためにどうするか一生懸命考える。現場では責任者である。
- ・今回の火事場では、やはりプラント経験のある人間が必要になる。2Fでいうと、僕ともう一人の上原検査官が、メーカーで電気の設計のプラント経験があった。それに加え、判断する人間がいれば非常にいいと思う。
- ・今回起きたときに、1Fの吉田さんの「おれ死ぬかなと思った」ではないが、あれと同じような気分だった。だから自分は残ろうと思った。収束させるまで残るつもりでおり、佐藤所長にもそういういい方をした。
- ・双葉郡のオフサイトセンターにいるよりは、緊急室の方がずっと、耐震的にもいいし、管理できていて心配がなく、ある意味安全である。
- ・2F(の1、3号機)は自分らで作って育てたものであり、いい加減なものを作った覚えはないから、大丈夫だと思った。1Fはちょっと残念だったけども、そんなにやわなもの作ってない。

【機密性 2 情報】

7 2Fでの事故対応について

問 今回の事故対応ということで、お伺いできればと思います。事前に、（保安院長が）お話を伺ったということで、その辺もちょっと聞かせて頂いております。事故が起こった時に、その後もサイトの中にいらっしゃったんでしょうか。

答 そうです。保安検査をやるんですね、年に4回。それが終わって、最終会議が終わったとこだった。そろそろ帰ろうかなあという時に、今回の事故が起きました。地震が起きたんですね、まず。

問 なるほど。その後、どういった動きをされたんでしょうか。

答 地震が発生しましたんで、その場合には緊急対策室というのがあるんですけど。

問 免震重要棟？

答 免震重要棟の中にですね。そこにすぐ行きました。保安検査官、所長プラス3名が緊対室に行きました。

問 その時は、1Fも検査をしていたようで、全保安検査官と本院から1名補佐がいらして、合計8名の体制だったと聞いていますが、こちらは補佐とかはいなかったんですか。

答 なしです。6名だけです。

問 6名、全員の方がいらした？

答 そうです。

問 分かりました。こういう地震が起きたときに、保安検査官の方々が、どういう行動をまずとらないといけないとか、事前に決まっていたりするんですか。

答 被害の程度をまず確認しなきゃいけない。スロッシングみたいなので、水漏れがあるかどうか。あとは、中操行って、変なデータがないか、まず見なきゃいけない。見て、地震の時はなにもなかった。電力からも、中操からの連絡は特に問題なかった。だから、何も壊れてないなど、そのとき感じました。

問 その確認が取れたときは、まだ6名の方は全員いらっしゃった？

答 はい、6名、そうです。

問 分かりました。聞いた話では、その後2名ですね、佐藤（保安検査官事務）所長と上原検査官？

答 それは、もしかしたら違ったかもしれない。2名オフサイトセンターに戻りました。4名がサイトに残りました。

問 それ、いつ頃だったか覚えていますか。時間的に。

答 最初の11日でしたよね。11日に2名戻ったのかな、オフサイトセンターに。それで、4名が、徹夜というか、免震重要棟の緊対室に残りました。状況を確認して、どうなるかってなことをやりました。

問 分かりました。4名の方は何か役割分担？

答 はい、現場とかですね、情報収集をやって所長に報告して、どうするかを相談し

【機密性2情報】

ながらやってました。

問 その辺、取りしきられる方が誰かいた？

答 佐藤所長です。

問 所長はオフサイトセンターにいらっしゃった？

答 じゃないです。現場にいました。

問 11日は？

答 そうです。

問 じゃあ、夜戻られたということですね。

答 じゃなくて、翌日だったと思います。オフサイトセンターが開かれるっていうんで、所長と上原（検査官）が戻ったんです。そのときは、決死隊みたいな形で彼は帰りました。

問 逆に外の方が危ない？

答 そうです。そういう意味では厳しいです。オフサイトセンターに行かなきゃいけない。1Fに近づくじゃないですか。2Fというよりは。

問 じゃあ、11日は6名全員で？

答 4名です。2名、多分残ったと思う、2人なにしろ戻したんですよ、最初の時に。

問 ああ、所長と上原検査官ではない2名が11日に戻られたと？

答 そうです。クロダとサトウヨシさん、ヨシというのが戻りました。すいません。

問 そういうことですね？

答 そうです。オフサイトセンターを開くというんで、佐藤所長と上原（検査官）が一応。

問 さらに戻った？

答 戻ったということ。オフサイトセンターに、いろいろと連絡したりしなきゃいけないんで。現場は、僕が面倒見ますということで、やりました。

問 残った2名の方々は、我々が残りますというのは、何か自分たちでこれをしなきゃ？

答 ええ。僕はそういうつもりだったんで、僕は何にせよ残りますよと進んで手をあげました。

問 もう一名の方というのは、何か専門があったりとか？

答 専門は無いんですけども、一人だと何かあった時困るだろうっていうんで、所長がもう一人残れという話をしたと思います。僕一人でもいいですよって言ったんですけど。

問 分かりました。で、その後は2名の方が？

答 そうです。10日間そのままです。

問 分かりました。伺った話では、緊対室の中のメインテーブルっていうんですか？

答 メインテーブル、全部、はいそうです。

【機密性 2 情報】

問 以前、資料としていただいている「保安検査官業務マニュアル」というものに、事故が起こった場合は、原則として2名が現場に行き、現場確認を行い、報告を行うと。具体的にどういうことをしなきゃいけないっていうのは？

答 状況によって違うんです。事情に（よって）違ってきます、それは。中操に行くのと、現場を確認したり、いろんなことがあります。あと、事務所に連絡するために、保安検査官室が発電所の中にあるんですけど、そういうものとやったり、いろいろあります、それは。で、現場と、中操で見たり、試験の時もそうなんですけど、現場と中操っていうのは、必ず組になってやってるんです。

問 分かりました。じゃあ、今回の事象が起こった時、12日の朝にはですね、2Fについても緊急事態宣言が出て、多分騒然としてたかと思うんですけども、どういったご活動をされたか？

答 僕は、いろんな情報、ある意味ではもう、出れなくなっちゃったんですね、緊対室から現場には。

問 それは線量？

答 線量の問題もある。緊対室に全部情報が入ってきますんで。2Fの場合は、外部電源が生きてたんで、中操の情報が全部入った。だから、あの、特に現場に行ってみる、というのか、最初の時、だいたい状況をつかんでましたんで。だから、ある意味だと、現場に行くにしても装備の問題とかいろいろあるじゃないですか。それで、我々が使っちゃうと、行くべき人が行けなくなっちゃうとまずいってんで、僕なんか行かなかった。ある程度、状況がもう分かってたし。毎月見ているところですから、よく分かるんです。

問 わかりました。緊対室の中のメインテーブルに座られた、そこで結構やり取りがされて、各班から班長級といますか？

答 GMクラスが、電気なら電気とか、技術課とか、機械のリアクターとかタービンとか全部います。

問 そのなかで、ご発言をされるとか、助言をされたりとか、どういったことをどういう？

答 状況をまず、確認をして、どう対処したらいいかを決めなきゃいけない。まず、状況をつかむということを、緊対室のテーブルのところで、議論してたわけです。2Fでは所長とユニット所長っているんですけど、その2人が中心となって、それをやってました。増田さんという所長がいるんですけど、彼がその辺を、冷静にやりました。

問 分かりました。プラントに関して、非常に知見があって、いろいろとアドバイスをされたと、過去の経験からいろいろなことをということなんですけど、国の保安検査官として、何か特別にこういうことをしないといけないという思い、それとも、個人的な？

【機密性2情報】

答 僕は個人的なものが強かったと思います、正直言って。保安検査官は要するに、一番大事な（原災法）10条、15条、その時にどうしたらいいかってことが、判断がある。それはやりました。これになったら、すぐ15条（通報）やらなきゃいけない。電力も「それはおかしい」とか、結構まともな人間がいますから、やっていけた。「そうだよね」「そうだよ」って、つまらないこと、そんな感じです。

問 法律的、形式的なところは押さえて？

答 かつ、だから、プラスアルファは、個人的なやつが結構入ったと、正直言って思います。そんなんやったらだめだ、とか、そういうことはやりました。緊対室に入って経験のある人間は大事だと僕は思いました。言葉出せない、なかなか、そうじゃないと。

問 その騒然とした中で？

答 そうです。騒然でもなく、2Fの場合は割と。僕は、緊対室で1Fを見てて感じたんですけど、（東京電力のテレビ会議システムの）テレビで映ってるんですけど。2Fはずっと落ち着いてました、みんなが。それは、すごく感じました。動き回ってどうのこうのはなかった。みんなちゃんと議論してた。すごさはありました、やっぱり。それはやっぱり、所長なり、上に立つ人間の器量だと僕は思ってる。あんまり、がたがたしないで、要するに冷静な議論をして、だから「おまえ、こうだよ」って指示をちゃんと出せば、人間は動くんです。

問 増田所長は、そこを？

答 ちゃんとやられてました。

問 対応されていたと。増田所長とかユニット所長とかと直接やり取りをされて？

答 そうです。

問 こうすべき、そうすべきと？

答 毎日顔を合わせてますから。だから、ある意味だと、過去のこと、我々知ってますから。そういうのは常日頃の付き合いです。

問 気軽に？

答 話せる。ええ、そうです。

問 1Fにいらっしやった方に、話をちょっと聞かせていただいた時に、まさに1Fは修羅場と化していた？

答 修羅場だったと思います。

問 吉田所長も叫びまくっている、そんな状況で所長に話しかけられるような雰囲気ではなかったとか、もともと、なぜか緊対室のメインテーブルに席がなくて。そこに席をよこせと言える雰囲気でもない。

答 それは、言うべきです。僕ならそれ言います、絶対。日ごろの付き合いで、あいつはどうだってことを思ってくれたと思う。変な話だけど、そういう時、役人って、役に立たない。正直言って申し訳ないけど、火事場の時に。僕はそう思ってる。（現

【機密性 2 情報】

場の) 危機管理としては、邪魔になるだけ。東電の本店みたいなもんです。うるさいって、言いたくなることありました、見てて。

問 現場知らない？

答 そう。僕は、そこは保安検査官らしくないけど。

問 増田所長はそういった意味で、宮下さんであれば、話を聞けば、何か建設的な意見が返ってくると期待するところもあったんでしょか？

答 あったかもしれない。だけど、吉田さんなんて、保安検査官が言った時にこう(拒否)はしなかったと思います。言うべきです、やっぱりあれは。(保安検査官は)そのためにいるんですから、現場に。霞ヶ関にいてもいいんです、普段。そのために、我々は現場にいるって、僕は思っていました。だから、所長には言いたいこと言いました。

問 議論もしたんですか？

答 します。はい。

問 やろうとしていることがおかしい、とか？

答 ええ。それやりました。

問 具体的に、どういうことなんですか？

答 だから、手順も、こうやった方がいいよ、ってなこともやりました。

問 増田所長も受け入れたり、議論したりと？

答 そうです。そういう意味では、2F では結構、爆発しなかったせいもあるけど、何やればいいのかを整理ができた。1F は整理もつかないでめちゃくちゃになったと僕は思う、爆発があったために。

問 そのころに、4名の検査官がオフサイトセンターにいて、2Fも12日くらいは結構緊迫した状況になっていて、連絡とかは、結構、密に取られていた？

答 連絡取れなくなったんですね、オフサイトセンターとは。携帯も全く利かないし、どうしようもなかった。あと、1Fの方が大問題になったわけです。だから、2Fのことなんて、みんな気にしなかったんじゃないかと思ってる。そんな感じで、連絡が付かないからしょうがなかった。

問 1Fが、大分事象が進行して？

答 そう。2Fは、やるしかないが残ったみんなで作ってた。

問 途中から確か、PHSが？

答 ええ。それだけは通じたんで、連絡はしました。

問 それまでは、ずっと？

答 全く連絡つかない。どうしようもない。

問 そこで、2人の方が残られて、増田所長とやり取りをして？

答 そうです。全部ですけどね。各GM含めてです。こういうのは、集めた方がいいよとか、そういうような話もしました。

【機密性 2 情報】

問 もともと、そのメインテーブルに、席が用意を東電がして？

答 されたかどうか分かんないですけど、座りました。

問 もう一人の方は座ったんですか？

答 そうです。二人とも座りました。

問 分かりました。3月14日に、1Fの3号機が爆発をしまして、かなり線量が上がってきたと聞いてますが、オフサイトセンターもそのあたりから、もうそろそろやばいんじゃないかという話も。

答 近いですからね。

問 はい。多分2Fも、そのころ、2F自体というよりは、1Fの影響で、線量が？

答 上がった、5 μ (Sv/時)くらいいったのかな。駄目だと一時的には思いました、正直言って。1Fの出口のところでしたっけ、あそこがものすごい線量が上がった時に、うわーっと思いました。あの時は、正直言って。

問 確か800 (μ Sv/時)とか？

答 そう。ええっ、て感じでした。吉田さんが、もう駄目だと思った、って答えてて、僕もそう思いました。

問 そうですね。14日に2号機がかなりやばい状態になって。その後10日間、事故後から残っていただいて、例えば、今、これはちょっとまずいんじゃないかと？

答 その時は思いました。その後下がったじゃないですか。下がってきて、風向きをすごく気にしました。2Fは2Fでやらなきゃいけなかったわけです、ポンプとか。要するに、止めるのはできたんですが、冷やすができなかった。だから、一生懸命いろんなことをやって、その時に風向きをものすごく気にしました。

問 プルームが来るかもしれない？

答 そうです。そんなこと気にしながら、手順書を決めて。工程表、2Fの場合は、外部電源が生きてましたんで、いつまでっていう条件ができた。何時間後、要するに、2日後とか3日後までにやれば冷却できるという状況が工程表になって、みんなが情報共有できた。

問 一つの目標に向かって？

答 そうです。それがものすごくでかかったと思います。ものも集めたし、モーターで三つくらい足りなかったかな。(モーターが)駄目だったんで、柏崎と、それから東芝の三重工場からですね、モーターを持ってこさせて。あとケーブルとか、そういうの、全部持ってこさせた。それは電力の資材の人間が、やったんですけど。必要な物は全部チェックして、何時間後に生かさなきゃいけないということで工程表を作ってですね、それで、現場の工事をやってもらった。

問 いただいたメモでは、ご自分でまとめられて事業者の担当者に渡したということなんですけども、素案みたいなものを作られた？

答 作りました。

【機密性 2 情報】

問 どういったものを？紙に？

答 紙に書いたんです。

問 まず、これやって？

答 ええ。手順書っていうのも、こんな感じの。こんなこと指示しましたって、手順書も送った。福島の空港から広野に持って来てってなことを、緊対室のテーブル全部でみんな議論するわけです。こういう書いたものがないと、みんな全部まとめなんかできない、整理できないんで、こんなのやって、あと工程表作れってんで、その後、こういう工程表になるんです。これ、基準、あの、あの、あれがあるからなんです、タイムスケジュールが。いつまでにやるっていうことがあれば、これができてるんです、この手順を含めて。

問 目先のことばかりやってるんじゃないくて、まず、これやって、これやって、これやって、って順序あると。ご自分で作られて？

答 そうです。

問 担当者に渡されて、それが結果的にこうなると。これ見られた時に、増田所長とか、何かおっしゃってましたか？

答 やっぱりっていう感じでしたね。だから、やれる人間ってのは知ってたから、彼なんか、僕が。さっき言ったように、2Fで（東芝の）所長やってたし。

問 ありがとうございますと？

答 ええ。

問 分かりました。当時、現場で作業する中で、オフサイトセンターが3月15日に、県庁の方に移ってしまいまして。1Fの[]に話を聞いた時に、1Fに残っている検査官が、オフサイトセンターが移って孤立してしまうということを非常に恐れたとおっしゃっていて。撤退というか、オフサイトセンターが移転するという話はうかがってましたか？

答 聞きました。私どもが残りますという話を（佐藤）所長にはしました。

問 所長は、戻ってきた方がいいとか？

答 それはなかった。彼はまだ一日目を知ってる、佐藤所長は。だから、彼は、僕が残ると言ったときに、反対をしなかったんだと思う。

問 一日目を知っているというのは？

答 要するに、がたがたしてても、ちゃんと電力が対応してるし、それなりのことを、あいつだったらやると思ったからだと思う。

問 残って頑張れると？

答 頑張れると。頑張れると思ったと思う。それは、佐藤さんに聞いてもらった方がいいかもしれない。僕が何度か「戻るか？」と言われた時も、僕だけは残りますという話はしました。

問 例えば、オフサイトセンターが実際に移転するという時は、連絡は来たりしまし

【機密性 2 情報】

たか？

答 来ました。すぐ、はい。

問 あの、これで拠点？

答 福島県の庁に行くって話は聞きました。だから、連絡とか、こういうやつ（工程表）を送ったり、この工程表の通りになっているかっていうような話とか、どんな状況（とか）、困ってる事とか、そういうことは、佐藤さんに連絡はしました。

問 そのころには、もう電話はつながって？

答 電話、FAX も生きましたし、県の方は大丈夫だった。

問 移転するという話も？

答 それは聞きました。電力同士のケーブル（テレビ会議システム）で聞いたのかも知れません。なにしろ、PHS は全く通じないし、ひどかった。au も全く駄目でした。

問 そうですね、確か、交換機が全然。わかりました。私、1F の検査官の方に、いろいろと話を聞かせて頂いて、1F も大変な状況だったというのがあるんですけども、例えば 3 号機が爆発をして、ものすごい線量が出て、確か緊対室の中でも、あの、50～60 (μ SV/時) が、普通に出てて、というような状態で、最終的に彼らはですね、サイトを離れるという決断を 14 日夜にして、一緒にオフサイトセンターに移っています。この決断っていうのは、どう考えればいいのかと我々も思っています。

答 難しいです。僕は 1F にいなかったから。2F の場合は、緊対室にいれば、5 μ (Sv/時) 以下くらいだったと思う。だから、あそこにも、大丈夫だなというつもりはありました。1F の緊対室にいられたかどうか、あまり自信はないです。正直言って。事象がわかっているだけに、多分、自信がないですけど。吉田さんじゃないけど、最後まで残ったかもしれないし。僕の性格的な問題とか、いままでのやってたことを考えると、今でもそうなんですけど。今、一時帰宅のお世話みたいなこともしてるんですけど、それもやっぱり、罪滅ぼしみたいな感じの、自分自身でもあるんですけど。結構知った人がいるんです、そこに。一時帰宅の方も、結構知った人がいるんです。

問 1F の方は、大臣の方から指示が出ていて、注水作業を監視するよというようにということが伝わっているようです。2F については、何かオフサイトセンターなり、本院なりから、どういう情報が欲しいとか、指示があったとか？

答 まったくなかったです、正直言って。要するに、みんな 1F ばかりなんです。2F でこういうやつを送っても、あんまり反応がないんですよ。それはちょっとがっかりしましたけどね。

問 3 号機が爆発した時に、大丈夫かとか、そういうレベル？

答 それもなかったです。連絡付かないこともあったけど、あんまり。あの、こっち

【機密性2情報】

は大丈夫ですから、という言い方も、佐藤さんにはしましたけど。所長にはそういう言い方をしました。所長が困るなあ、困るだろうと思いました。自分がその立場ならそうだと思います。

問 10日たって、交代をされたと？

答 はい、そうです。交代をしろと言われてたんでしました。僕は、残ってもいいと思ってた。

問 10日目に交代することになったのは、何か？

答 多分、ずっと10日間も、要するに、半分詰めているような形でずっといました。あと、5日くらいから、それこそ雑魚寝だったんですけど、テーブルのところに、こんなん（うつぶせに）なって寝てたんですよ。その（テーブルの）脇とか。そんなことやってたんで、何日目だったか、はっきり覚えてないんですけど、増田所長が、みなさんたち大変だからって、部屋を用意してくれた。それは当直の部屋だったんですけど、2人でベッドと床で寝てましたけど、その部屋に入って。

問 休憩を取る時にはその部屋で？

答 そうです。はい。

問 実際の活動は、緊対室で？

答 ええ、そうです。緊対室で。

問 ほぼ緊対室に常駐するような？

答 そうです、はい。10日間は全く居ましたので。だから、佐藤さんも、「大変だったろうから、もう代わった方がいいね」って言ってくれたんだろうと思います。

問 分かりました。先ほどの浅井の話ともつながるんですけども、今回の事故を振り返って、先ほどおっしゃっていただきました、いわゆる火事場で力を出すと、もちろんプラント経験も必要だと思うんですけども、ご自分がこうやってある意味で強いリーダーシップを含む、こういう（作業工程表作成）ところも含めて、されたのは、振り返ってどうだったのでしょうか。振り返って、どういう要素が働いたのか？

答 僕はやっぱり使命感だと思ってます。1Fでも同じですけどね。やっぱり自分の責任を果たすという意味では、僕は、もう同じようなものを持って。本当、冷温停止まで持って行って、その状況が、変わらないことを確認したかった。要するに、2Fも15日前後で、冷やすことができたんですけど、1系統しかない。地震がまた起きてぶっ倒れたら終わりなんです。少なくとも2系統にしたいというのがものすごくありました。それと、生活環境が、ひどかったじゃないですか。だから、1Fを改善するための努力ってのをやりましたんで、その状況も、確認を一生懸命してました。緊対室も、電気をですね、あの、ディーゼル（発電機）がアウトになっちゃったんです、海水かぶったから、津波で。事務本館から持って来てたんです。部屋までね。東電とも、窓も破ってっていうか、開けてやってると、結構、あの時寒かったですから。そういうのもあったんで、改善しようと言って、みんな一生懸

【機密性 2 情報】

命やりました、あの時は。何にせよ、本当に火事場でしたけど、みんなが落ち着いて目標を決めて、きちんとできたのが、2F はものすごいチームワークの。(院長に対して) 言ったんですけども、やっぱり、人だと思いました。そんな人がいれば、対応がある程度できるなと感じました。メーカーも、それから、電力も関連会社も含めてですね。そこがやっぱり、(2F に) いて、対応できたというのは、素晴らしかったと僕は思ってます。最初の外部電源の一つ残ったということで、非常に運が良かったと思います。あと、熱交換建屋っていう建屋ができたんです。1F はむき出しになってたんですけど。だから 3 号機だけが助かった。3 はすぐ冷却できた。1、2 号機は、津波でやられた。だから、やっぱり、プラントはある意味だと、何年か、30 年たったらやっぱり、直した方がいいです。つくづくそう思いました。直すってのは、基本的なとこ直した方がいいのかなと思って。そういうことはちょっと感じました。僕が助かったのは、多分、それは運だったと思うんです。1F でも 4 (号機) までは駄目だったけど、5、6 (号機) は助かったんだよね。

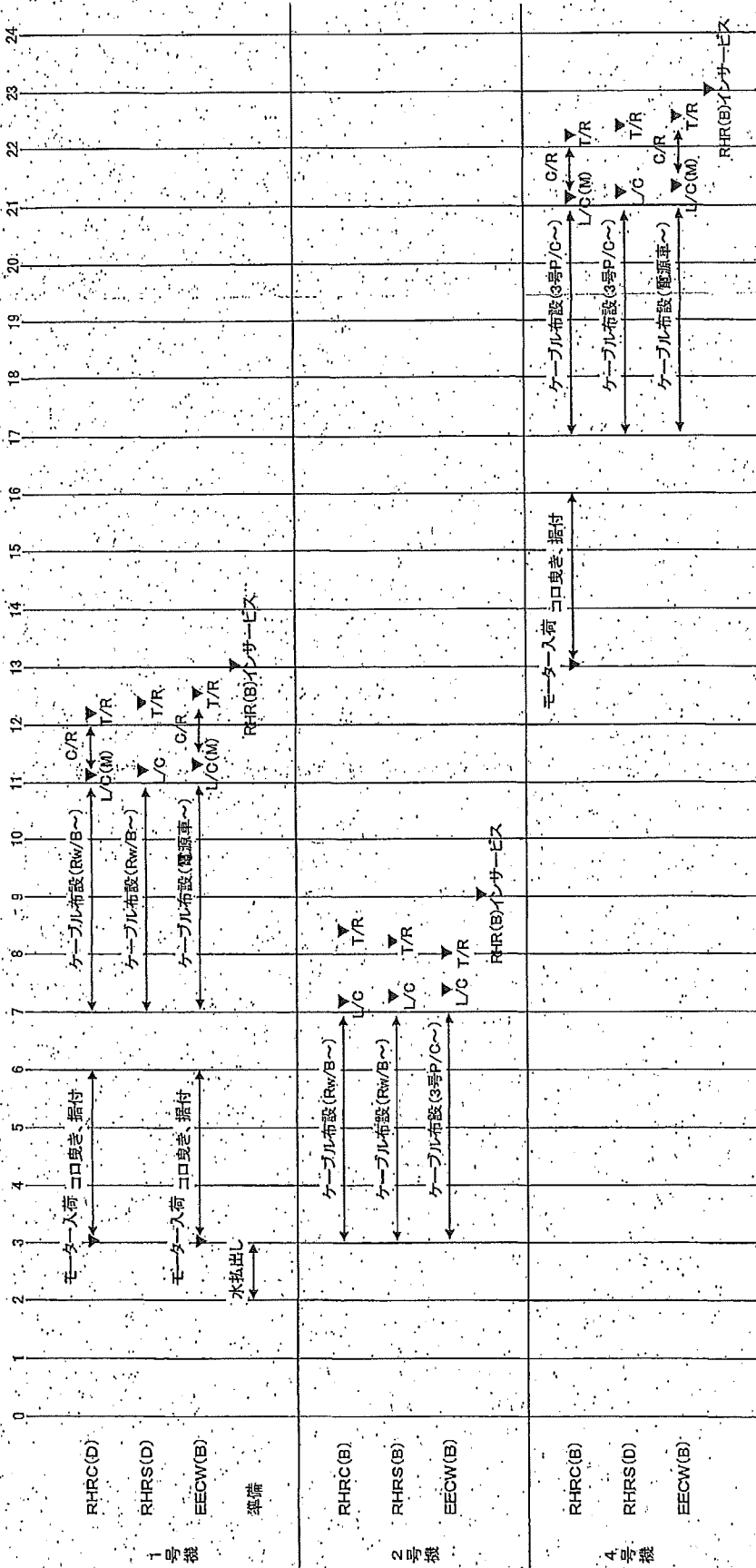
問 はい。外部電源も。

答 そう。あれがねえ、タイラインがあったはずと思ってたんですけど。1F の 1、2、3、4 (号機) に対しては。記録で確認したはずなんだけど。削除されましたけど、あの時は。

福島第二原子力発電所1, 2, 4号機 電源復旧スケジュール

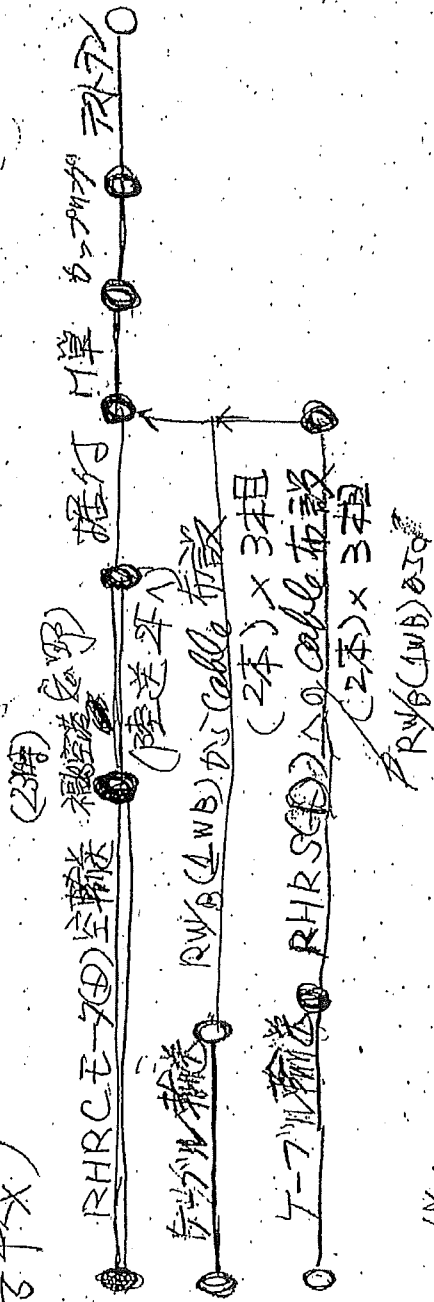
H23.3.13 (REV.0)

3月13日

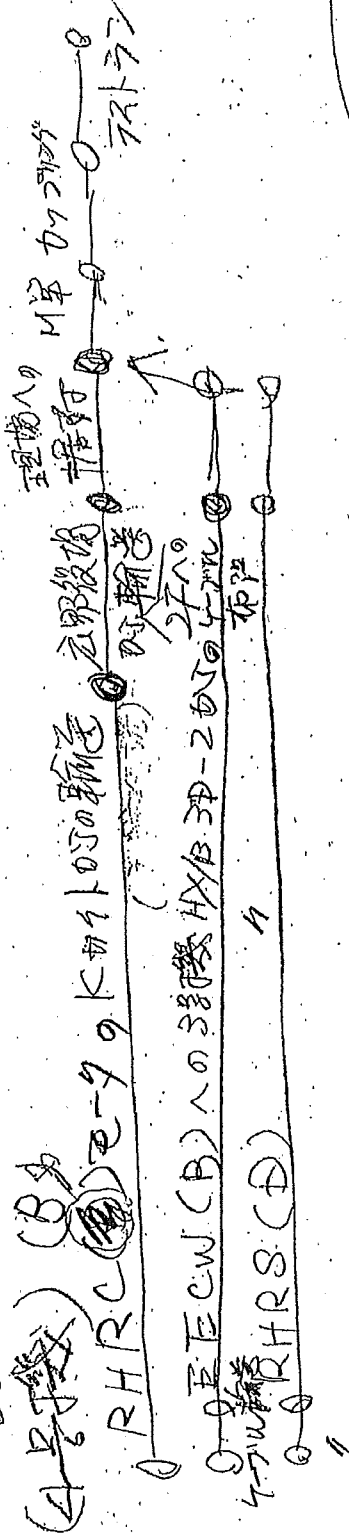
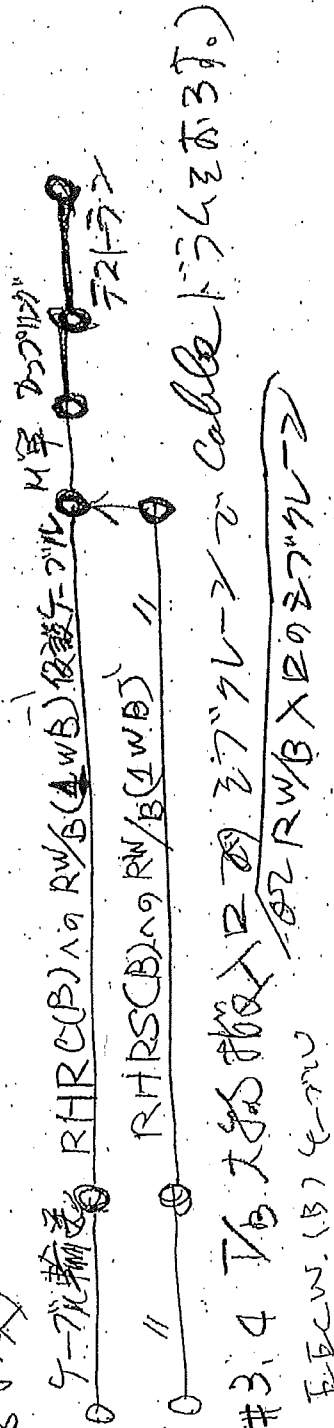


* RHR運転モード[S/Cケーリングモード→LPCモード→S/C水位調整(SPHへ)]

(1号機)



(2号機)



OFC

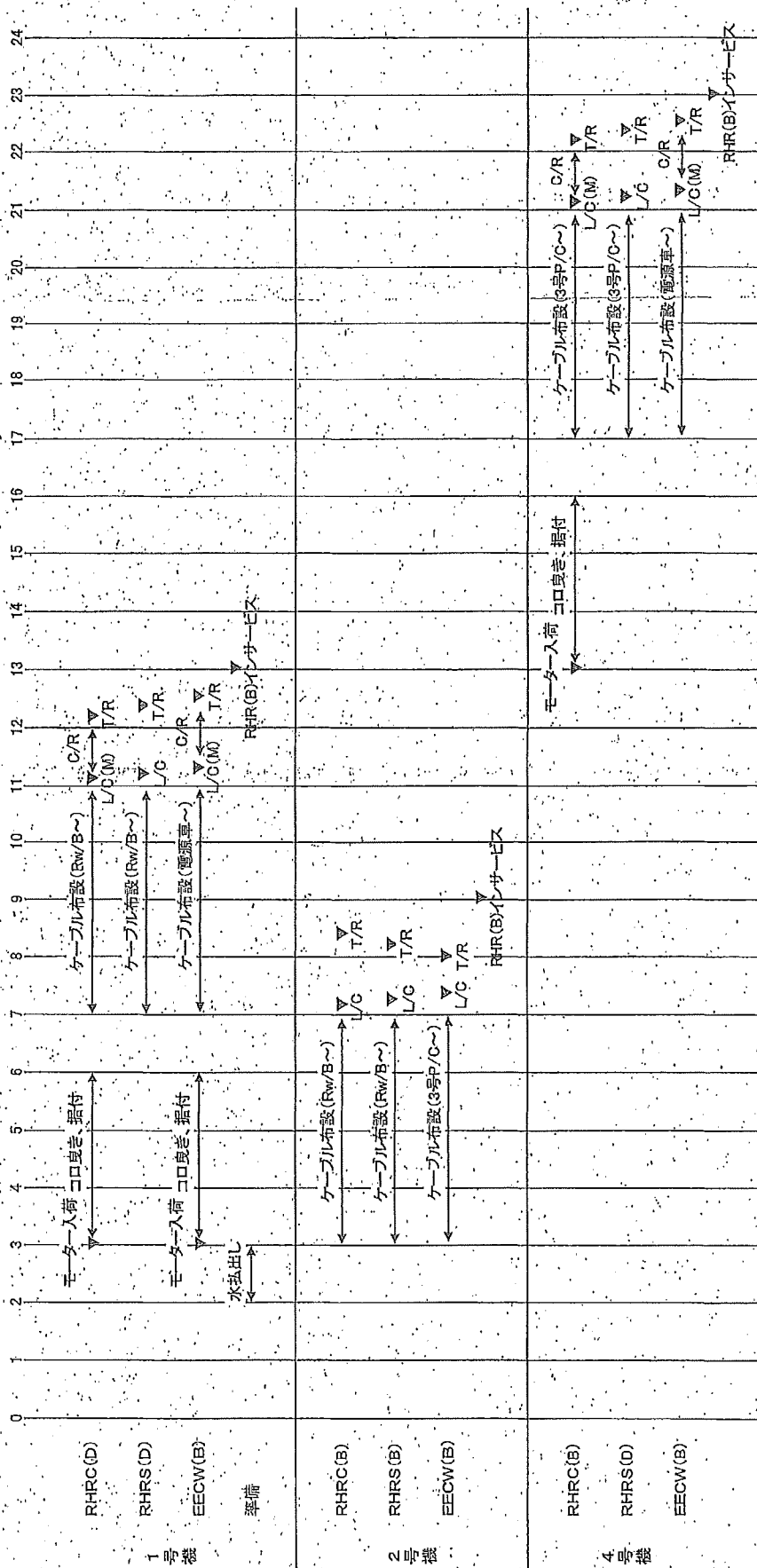
机新設

宮下

福島第二原子力発電所1, 2, 4号機 電源復旧スケジュール

H23.3.13 (REV.0)

3月13日



* RHR運転モード(S/Cケーブルモード) LPCフェード/S/C水位調整 (SPHへ)